

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表：2021年3月31日

事業所名 放課後等デイサービスセンターあだち

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5		指定基準に基づき、十分なスペースを確保している。	
	2	職員の配置数は適切である	2	3	補助に入ることの出来る人員を確保し、人数が少なくても円滑に運営できるように工夫し取り組んでいる。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	5		全面バリアフリー化している。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	4	1	毎月一回全体会議を開き、職員が意見を出し合っている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	3	2		
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5			ホームページで公開している。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	3		関連機関との連絡を積極的に行い、情報交換に努めるようにしたい。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	2	1	外部の研修に参加する事は時間的に難しいため、定期的に内部での勉強会を行い、各職員のスキルを高めるようにしている。	
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	4		児発管が定期的にあセスメントを行い職員と相談しながら、計画を作成している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4			
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	3	2	児発管がプログラムを考え、職員全員で検討している。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4		子どもの様子を日々観察し、活動の振り返りを行い、プログラムに変化を持たせている。継続が必要な子どもには、プログラムを固定化して、指導に当たっている。	

適切な支援の提供	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	5		休日・長期休業時には、施設外での活動(ハイキング等)を取り入れている。		
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成している	5		SSTを用いた個別活動と、レクリエーションゲームなどの集団活動を組み合わせている。		
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	3	1	職員の役割分担を表にし、職員一人ひとりがスムーズに動けるようにしている。		
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	3	1	各職員が気づいた事柄を、全員で共有出来るようにしている。		
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4		記録したもの(情報)を、職員で共有している。	子どもを主観的に見てしまうことがあるので、努めて客観的に記録を取るように、気を付けている。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	5		毎月一回モニタリングを行っている。		
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせて支援を行っている	3		子どもの安全に配慮しながら、子どもが社会に適應できるような支援を心がけている。		
	関係機関や保護者との	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4		現場の主任が参加できるように、勤務を組み替えて対応している。	
		21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	5		学校送迎時に担当教諭と情報共有を図り、その日の子どもの状態を確認している。学年通信で予定を把握し、下校時刻の変更がある時は、学校から連絡がいただけるようにしている。	
22		医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている					
23		就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	3		保護者様を通して、就学前の情報を教えていただいている。	情報共有のためのミーティングを関係機関が集まって行うことができるようにしたい。	
24		学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	2				

の連携	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3		運営母体の精神科クリニックの専門家に助言を受けている。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		1		
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		1		
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	5		連絡帳と、送迎時等で毎回情報交換をし、必要であれば面談をしている。	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	4			
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	5		利用開始前にしっかり説明し、納得をさせていただいている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5		医療的な相談に対しては、職員が医師に相談して対応、心理的な相談は公認心理士が対応している。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		3		コロナ禍のため実施は難しい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	4			
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	1	1		会報は発行できていないので、今後の検討課題としたい。
	35	個人情報に十分注意している	5		職員が常に個人情報を意識し、外部に持ち出すことがないようにしている。	

	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5		疾患の知識をもとに、相手に伝わりやすいように工夫をしている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		3		コロナ禍のため実施は難しい。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	3	2		
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	5		年2回避難訓練を実施している。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5		全体会議で研修を行っている。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	5			該当事例はないが、マニュアル作成をして、保護者・関係者と事前に意見交換をし、理解を得た上で行うようにしていきたい。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	1		保護者様への聞き取りは、利用時にしている。	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5		全体会議で発表しあい、再発防止に努めている。	